

くつろぎサロン通信

2009年5月13日 創刊号
発行 十和田市立中央病院内
がん患者と家族の会事務局

創刊号発刊にあたり

会長 坂下 優

私は平成18年に胃がんの告知を受けました。真っ先に感じたのは死の恐怖であり絶望感でした。「なんで自分が癌に!? 私の他にもっとたくさん不養生の人がいるのに・・・」と思いながら入院し胃の全摘をしましたが幸い医師、看護師、医療スタッフのお陰でスムーズな退院ができました。その後は抗がん剤による副作用に悩んだり、再発・転移の恐怖から不安感が募ることありその苦しみから逃れるために本屋さん、図書館、インターネット等で治療情報を捜し求めました。そのうち誰かと思いを共有することが大切であることに気がつきました。昨年11月に同じ境遇の仲間が共に悩みながら励まし支えあって前向きに生きるための場として病院内に患者会「くつろぎサロン」を開設できることになりました。月2回の定例会では研修会、情報交換、フリートークなど行ってきました。今年度はさらに体験談やトピックスなど有益な情報等を発信していきたいとおもいますので皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

「くつろぎサロン」平成21年度活動予定

5月13日	ピアカウンセリングを知る
6月未定	蘆野院長講演会「がん支えあいの日」によせて
7月15日	トモセラピーについて学ぶ
8月12日	リンパ浮腫ケア
9月9日	リンパ浮腫ケア
10月14日	岩手;かたくりの会との親睦会“落語を楽しむ”
11月11日	ハーモニカ演奏と童謡
12月9日	クリスマス会
1月13日	疾患別学習会
2月未定	臨床心理士と語る会
3月未定	定例総会
くつろぎサロン通信発行 4月 8月 12月	
毎月第4水曜日 女性会員の日	
フリートーク、もの作り、学習会等々	



くつろぎサロン交差点

神の手と出会う

わたしががん体験記

宮崎 義久

はじめて見る内視鏡の画像! 大腸内の美しさに息を呑みいとおしくさえ思えた。そんな瞬時の感傷が「大腸にがんが・・・」の一言で脳天一撃となった。わたしは 退職後毎年人間ドックを欠かさず受

け異常なくきていた。たまたま休もうかと考えたこともあったが結果的には休まず受けたことが早期発見につながり幸運でもあった。気を取り直し「がんである以上は手術をして下さい」と冷静になれたのはそれまでの検診での知識や情報があったからか?! それにしても前年に世界遺産の熊の古道や高野山を歩いたり、つい1ヶ月前に中国やチベットの高地 4000 米を歩き自然美を堪能し健康的に過ごしてきたはずなのに?!

平成 18 年 12 月 21 日にがん告知され翌日から 5 日間の検査入院となった。大腸がんなのに胃カメラや CT 等々続けざまの検査で辟易していると再発と遠隔転移について説明されはじめて必要なことだと納得できた。年明けの平成 19 年 1 月 16 日手術。前日に担当医から詳細な説明と話し合いで私の不安と恐れが信頼へと変わった。特にはじめて聞いた“腹腔鏡下手術”は切らない手術として世界的にも新しいこととか! わたしにこの方法でと言われたときは崖っ淵から救われた思いがし、ここで医師に対して 100%の信頼感を持てたことがなによりであった。

退院後にたまたまテレビで『神の手を持つ医師』の特別番組があった。房総のある医師のもとに全国からのがん患者が列を成すという。なんとこの医師の手法と私が受けたのは同様のものであり「僕もこれとおなじものを受けたんだ! 十和田の中央病院で!」と大声を上げた。その後私は身近にいるこうした医師たちの存在を誇りに思い紹介したいと体験記をある本に投稿した。あらためて思うのは早期発見、早期治療でなんの苦痛もなしに処置を終えて現在に至っていることに感謝し、ひき続き再発・転移に備え定期診察を神の手の医師にゆだねている。

最新トピックス

月刊誌がんサポート 2009 年 5 月号より

当院の蘆野院長はじめ全国のがん治療エキスパート 6 人によって“がん倦怠感”についての座談会がおこなわれました。そのあらまは

< 抜粋 >

がんやがん治療に伴う「倦怠感」は、治療やケアが遅れがちでがん治療の継続を困難にする原因にもなります。倦怠感のがんが進行したために起こるものと抗がん剤の副作用で起こるものと大きく分かれるが「副作用だから」という理由で「倦怠感があるって当然」と考えるのはその背景にある精神的、社会的要因を見失っていることがありがちなのでむしろ患者の話を聞いて倦怠感の背景を知ることが大切。科学で原因がわかるものは突き止め、精神的な要因はそれをサポートするシステムが必要。

編集後記

患者会発足から早いもので 6 カ月がたちました。助走期間だったはずなのにとにかく走った感がありました。いま見渡すと官庁街の桜がいつせいに色づき春のいづきが心地良く医療情報センター内では明るい光がまぶしいです。これからはゆったりとした雰囲気の中かで会話を楽しい時間になればと願います。

問い合わせ先 十和田市立中央病院 地域医療連携室 (0176-23-5869 新谷明子